

今週のメニュー

■トピックス

◇パンフレット発行のお知らせ - 『PVC と暮らす街』 -

■随想

◇「農業廃プラの適正処理とリサイクル市場」を巡って
その2：農業廃プラ出口の処理業者の動向

名古屋大学 名誉教授 竹谷 裕之

■編集後記

■トピックス

◇パンフレット発行のお知らせ - 『PVC と暮らす街』 -

これまで塩ビ工業・環境協会（VEC）では、塩ビに関する事実と正確なデータを広く社会に発信し、塩ビに対する正しいご理解を得るための活動を繰り返し続けて来ています。そのための資料として、塩ビの特長や使用用途、環境問題との関係や取り組みなどについて延べにすると数十種類に及ぶ各種パンフレット類を作成、紹介して参りました。

昨年は、一般の方々にも塩ビ製品がどのようなところで、どのような理由で使われているかを理解していただく目的で、塩化ビニル環境対策協議会（JPEC）の会員会社・団体にも協力頂き『Sustainability～塩ビが持続可能な社会実現に貢献します～』を発行、塩ビユーザー業界など多くの業界関係者の方々に塩ビの正確な情報を認識していただく手立ての一つとして活用頂いております。

しかしながら、『Sustainability～塩ビが持続可能な社会実現に貢献します～』では、まだ一般の消費者の方々には専門知識がある方々でないとご理解頂けない内容も多いとのご指摘を頂いております。今回、その反省を踏まえ一般の消費者、更には子どもたちにも容易に理解頂けるような内容にした、新たなパンフレット「PVC と暮らす街」を編集、発行致しました。

今回新たに作成したパンフレットは正方形タテ冊子版で全23ページからなり、お店で、自動車で、病院で、農作業で、そして家の中の日常会話の中で、塩ビ製品がどのようなところで、どのような理由で使われているか、また循環型社会で塩ビがどのように貢献出来るかを絵本仕立てで解りやすく説明しており、子どもたちにも理解出来るような内容にまとめました。



今回作成したパンフレットを、これまでの業界関係者というより、マスメディアや消費者団体の方々、そして何よりも一般の消費者、更には子どもたちに広くご提供し、塩ビの正確な情報を認識していただく手立ての一つとして活用していく予定にしております。VEC HP [資料室](#)からダウンロードできますので、そちらからご利用頂ければ幸いです。また、本パンフレットについてご興味のある方や内容についてのご意見やご不明な点などございましたら、遠慮なく [VEC](#) へお問合せください。



■ 随想

◇ 「農業廃プラの適正処理とリサイクル市場」を巡って その2：農業廃プラ出口の処理業者の動向

名古屋大学 名誉教授 竹谷 裕之

前回は、農業廃プラ処理業者の市場退出をみる際、廃プラ処理は規制産業であると同時に競争産業という2面性を念頭に置く必要があることを書きました。この2面性が具体的に業者の市場退出にどう反映するのか、考えてみたいと思いますが、そこに入る前に、さしあたり農業廃プラ処理業者の全国的な動向をみておきましょう。もちろん、この種の統計は指定統計にはありません。農水省が業務に必要な限りで収集する調査データがあるのみで、それも10年ほど前に総務省統計局から必要性に疑問が投げかけられ、見直しを余儀なくされましたが、ほかに利用できるデータはありませんので、これを活用することにします。それは、農水省が各都道府県に照会してとりまとめている「園芸用ガラス室・ハウス等の設置状況」に掲載されている処理業者リストです。このリストを1件ずつ丹念にフォローすることで、業者の参入・継続・退出の動きを把握しようと思います。もっとも、農水省の処理業者情報収集は1990年3月が最初で150件が記録されています。その後データがあるのは1998年度以降で、それからは隔年調査として行われ、2010年度に上述した理由で終了しています。その後は、2012年度に(一社)日本施設園芸協会が同様の方法で各都道府県に照会しているデータがありますので、これらを合わせて活用することで、解析作業をすることにします。

この農水省等の処理業者名リストによれば、全国の処理業者数は、表にみるように変化してきています。すなわち、2002年度まで増加傾向に推移した後、減少に転じ、2012年度にはピーク時の516件に比べ、25%減の389件になっています。農政局別に見ると、北海道と東北がほぼ増加傾向に推移しているのを除けば、ピーク時がずれることはあっても傾向としては、全国的動向とほぼ同様の推移を示しています。つまり2000年代初頭を転機に、農業廃プラ処理業者は処理市場をめぐる競争と淘汰の時代に入ったと推測されるわけですが、但し、それは業者動向の一つの特徴であって、それ以外も見ておく必要があります。この点は次回にしましょう。

表 農業廃プラの農政局別にみた処理業者数の推移と 2012 年度の排出量 (千ト)

年度	全国	北海道	東北	関東 甲信	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
1998	374	24	66	92	22	30	33	27	30	44	6
2002	516	46	88	98	28	37	59	55	45	52	8
2006	491	47	84	105	21	43	52	47	35	50	7
2010	416	49	84	67	24	39	50	31	20	45	7
2012	389	48	92	55	25	36	41	34	18	34	6
2012 排	122.7	19.9	11.3	32.7	3.0	3.8	3.6	2.2	7.7	30.7	1.2

資料：農水省「園芸用ガラス室・ハウス等の設置状況」各年版、日本施設園芸協会「園芸用プラスチック適正処理の手引き」2017.2。調査は各都道府県担当課に問い合わせ、各都道府県が把握している業者名をリストアップしたもので、漏れている可能性も否定できない。最下行は排出量

(つづく)

次回は、「その3：農業廃プラ処理業者の事業継続性」です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

5月にVECに着任しました。これからよろしくお願い致します。VECのオフィスは東京にあるのですが、私は東京暮らしが初めてで、早くも通勤ラッシュに驚いています。ホームではドアが開くたびに駅員が大声をはりあげており、その中で押し合い、ひとたびホームに降りるとホームからこぼれ落ちそうになりながら入線する電車のわきをこわごわ進みます。私は学生時代を北国で過ごしましたが、冬は毎朝雪かきが必要で不便を感じていました。ここ東京も別な意味で毎朝ひと仕事が必要の様です。(体力のない登山愛好家)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp